

院内がん化学療法要項について

平成25年11月から平成26年2月にかけて開催された北海道大学病院腫瘍センター安全性専門委員会において、新たな院内がん化学療法要項「院内におけるがん化学療法の安全性に関する取り決め」が作成されました。

《安全性専門委員会とは》

安全性専門委員会が設立する以前も、化学療法については利用者懇談会が開催され、情報交換等が行われておりました。今まで死亡事故等の重篤なインシデントは発生していませんが、その手前での事故発生があった場合の情報共有を行い、安全性及び管理運営について、根本的な基準をより明確に定めるための委員会として、安全性専門委員会は設立されました。

《新・院内がん化学療法要項の内容》

この度作成された院内がん化学療法要項の主な項目は、次の4つです。「Ⅰ. 抗悪性腫瘍薬」「Ⅱ. ランマーク®(デノスマブ)」「Ⅲ. ゾメタ®(ゾレドロン酸水和物)」「Ⅳ. レジメンの逸脱について」。

Ⅰでは、原則各コースの初回投与日に、採血にて有害事象の判定を行うことや、治療中止及び延期を検討する際の目安を定めました。

Ⅱ及びⅢでは、投与時の条件や、投与に関する安全性確保の対応について定めました。また、初回投与前の対応についても定めました。

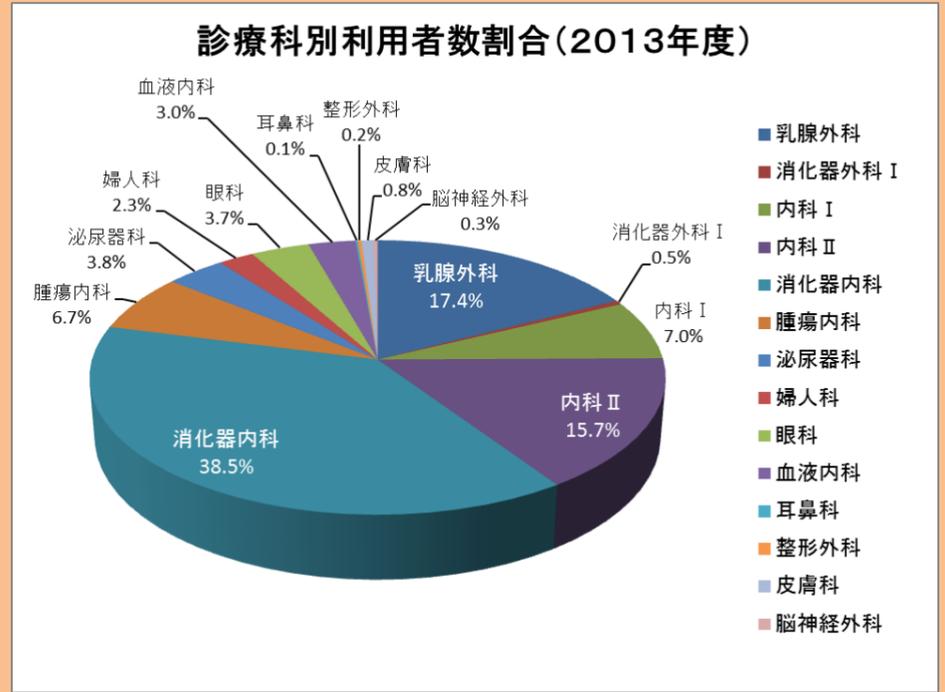
Ⅳでは、レジメンから逸脱したがん化学療法が行われないように、レジメン変更時の体重測定や、用量の変更理由の記載など必須項目が定められました。さらに、このような必須項目が満たされていない場合の対応も定められました。

これらの安全基準は、院内の医療従事者が共通の認識をもち、対応できるようになっております。

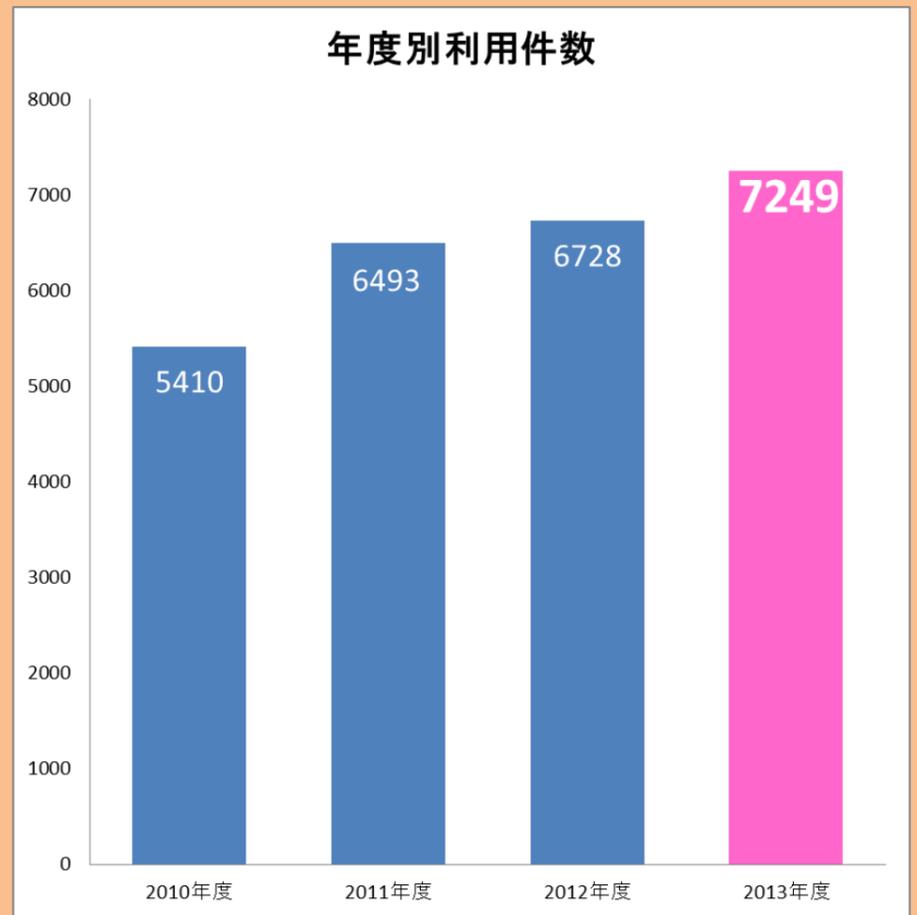
《マニュアルの確認方法》

院内の方は、詳細を医療情報端末から確認することができます。詳しくは医療情報端末>医療安全管理マニュアル>共通マニュアル>6)抗がん剤に関する手順書>(5)院内におけるがん化学療法の安全性に関する取り決めより確認してください。

化学療法部平成25年度実績



グラフ1



グラフ2

化学療法部(外来治療センター)における利用実績をご紹介します。診療科別件数は、消化器内科が一番多く、次いで乳癌外科・内科Ⅱとなっています(グラフ1)。

腫瘍センターでは、がん患者だけではなく、関節リウマチやベーチェット病、クローン病や潰瘍性大腸群等の非がん患者への分子標的治療薬も投与しており、その利用割合は20%以上となります。

また、年間利用件数が示す通り、2013年度は過去最高の7249件を記録しました。

平成26年度の診療報酬改定により、腫瘍用薬以外の薬剤や皮下や筋肉注射での投与薬剤については、外来化学療法加算が算定できなくなりましたが、腫瘍センターでは、薬剤監査が必要な薬剤や投与に高度な技術を要する薬剤については安全性を優先し、加算に関わらず受け入れを継続します。今後も化学療法部の利用についてご協力を宜しくお願い致します。

緩和ケアチームの新編制について

2014年4月から緩和ケアチームのメンバーの変更、および体制の充実が図られました。

チャイルド・ライフ・スペシャリストの藤井あけみが2013年3月で退職し、子供療養支援士である蛭田悠子(ひるたゆうこ)が4月より赴任し、病気を持つ子どもたちのサポートおよび親が病気の子どものためのサポートを開始しております。子育て世代のがん患者さんのための「わかばカフェ」、親ががんの子どもたちのサポートプログラムである「ことりカフェ」も今まで通り継続し、小児科病棟での子どものサポートも開始いたします。



子ども療養支援士 蛭田悠子

また緩和ケアチームに協力する精神神経科医師が5名となり、より充実したところのケア、精神症状の緩和・治療が可能な体制となりました。各メンバーが専門性を活かし、より専門的で有効な緩和ケアの提供を心がけていきます。

研修会・講演会のお知らせ

- ★外来がん治療研修会
6月12日(木)～13日(金)(腫瘍センターカンファレンスルーム)
- ★市民公開講座
6月14日(土)(学術交流会館)
「知らずにいると怖い子宮がん・卵巣がん～早期発見と最新の治療」
- ★腫瘍センターセミナー
6月26日(木)(会議室棟 症例検討室1)
「①肝障害時の化学療法～B型肝炎対策ガイドラインを踏まえて
②肝臓癌の治療について」(仮)
- ★ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育
7月26日(土)～27日(日)(フラテ大研修室)

ご意見ご感想などはこちらまで・・・
医療支援課 地域医療連携係
Email:itiiki@jimu.hokudai.ac.jp